

周囲セメント質齲歯のリスク因子の調査

○水上貴裕、古川雅樹、齋藤重彰、飯島 秋、足立 亮、神林夏実、江田 遙、天谷友彦
大和高原動物診療所

【背景と目的】

人同様に馬も体質、食べ物そして口腔内微生物などの要因が重なり齲歯（虫歯）が発生すると考えられている。一般的に馬の歯はエナメル質の特徴的な配置により、上顎臼歯のインファンディビュラに齲歯（Infundibular Caries:以下 IC）が50～70%程度認められるという報告がある。一方、臼歯周囲のセメント質が溶解する齲歯（Peripheral Cemental Caries:以下 PC）の発生率は5～8%と IC に比べ低いことが報告されている。今回複数の乗馬クラブで PC が多発していたことからそのリスク因子の可能性を調査した。

【材料と方法】

乗用馬 48 頭（年齢 6～27 歳、去勢馬 35 頭、牝馬 13 頭、品種:サラブレッド 44 頭、サラ系 1 頭、中半血 1 頭、クウォーターホース 1 頭、日本乗系 1 頭）を用いた。鎮静下で、デンタルミラーを用いた口腔内検査により齲歯（PC）、歯間空隙（Diastema）などの有無を調べた。同時に給餌内容、厩舎内の水の pH、PC 罹患馬（3 頭）の PC 患部細菌培養検査および薬剤感受性試験を実施した。

【結果】

PC は 31 頭（65%）、歯間空隙は 27 頭（56%）認めた。PC 発生部位は上顎後臼歯で多く認められ、PC 重症馬は下顎第三後臼歯（311、411）の鈎状突起が多発した。PC 罹患馬全ての馬にオーツヘイが給餌されており、厩舎内の水の pH は 6.0～6.5 の範囲内で顕著な酸性化は確認できなかった。PC 患部の細菌培養検査から *Streptococcus*、*Pseudomonas* spp.、*Candida* spp. が確認され、ミノサイクリンやドキシサイクリンが一部の菌で感受性が認められた。

【考察】

今回の調査により、オーツヘイの給餌は PC 発生のリスク因子の 1 つであることが示唆された。これは、Jackson らのオーツヘイと歯周病が PC のリスク因子として考えられるとの既報（K. Jackson, *Equine Vet J.* 2018）と合致するものであった。一方、オーツヘイを給餌した全ての馬に PC が見られたわけではなかったことから、リスク因子は給餌割合を含め多角的に探る必要がある。PC 多発部位の特徴は、唾液腺開口部と臼歯の位置関係で pH 緩衝作用が受け難い部位であり症状が進行したことが考えられた。PC の治療法は現状で確立されていないが、局所的な症状の緩和を目的としたミノサイクリン等の抗生剤投与が有効な可能性がある。